

科目名	構造力学 1							年度	2025
英語科目名	Structural Mechanics 1							学期	後期
学科・学年	建築学科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	小倉 直幸	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
【科目の目的】									
・建築物を計画するときは、構造力学を考えることが重要だと理解できる									
・構造的に安全な建築物か否かを直感的および理論的に理解できる									
・二級建築士の資格取得のための学問であることを理解できる									
【科目の概要】									
建築物を計画するにあたり、「経済性」、「不動産の維持・保全」、「人命の安全」のために欠くことのできない重要な要素である。構造計算を通してラーメン構造・トラス構造などの特性を知り、建築物の計画へ応用させるための基礎知識を学ぶ。									
【到達目標】									
A. 構造力学と建築の関係性が重要だと認識している									
B. 外的な力に対抗する反力の知識を持っている									
C. 断面一次モーメントがどのようなものか理解している									
D. 偶力・モーメントがどのようなものか理解している									
E. 力の合成と分解を理解し、一般的な計算とは別のアプローチから結果を導く試みをしている									
【授業の注意点】									
テキストと配布資料をよく理解し、予習・復習を行うこと。									
なお、確認テストや中間テストは未提出となると0点になるため注意が必要。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A	構造力学と建築を深く理解し、建築計画に活かすことができる		構造力学と建築の関係性が重要だと認識している			構造力学と建築には関係がないと考えている			
到達目標 B	外力に対抗する反力の問題を解くことができる		外力に対抗する反力の知識を持っている			外力に対抗する反力を理解することができない			
到達目標 C	断面一次モーメントの計算を解くことができる		断面一次モーメントの知識を持っている			断面一次モーメントを理解することができない			
到達目標 D	偶力・モーメントの計算を解くことができる		偶力・モーメントの知識を持っている			偶力・モーメントを理解することができない			
到達目標 E	別のアプローチから答えを導くことができる		別のアプローチでも解ける知識を持っている			別のアプローチでも解けることを理解していない			
【教科書】									
計算の基礎から学ぶ建築構造力学／オーム社									
【参考資料】									
いちばんやさしい建築構造力学問題集296／配布プリント									
【成績の評価方法・評価基準】									
学期末に行う定期試験、授業中に実施する小テスト、中間テストで学力を評価する									
出欠席および授業の通り組み姿勢で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等